

地域子育て支援拠点の 紹介と連携のお願い

ともに
妊娠期から
親子を
応援したい!

地域子育て支援拠点(以下、拠点)は、児童福祉法に位置づけられた市町村事業であり、「子育て支援センター」「子育てひろば」などの名称で全国に約8,000か所あります。主に妊娠期から概ね3歳未満のお子さんとその家族が集う場所であり、地域の情報を得たり、地域とつながる場として活用されています。

地域子育て支援拠点は、子育て家庭のウェルビーイングを高めるため、子育てのスタート期を地域側から応援します。

妊娠中や産後に利用できるサポート情報が得られます

赤ちゃんのお世話やかかわりを体験できます

子ども同士が関わり合い、育ち合います

ママ同士やパパ同士の交流が広がります

様々な講座が行われています

話を聞いてくれるスタッフがいて、子育てについての相談ができます

地域子育て支援拠点はこども家庭センターや関係機関とのさらなる連携をめざしています

子育て家庭を中心とした機関連携

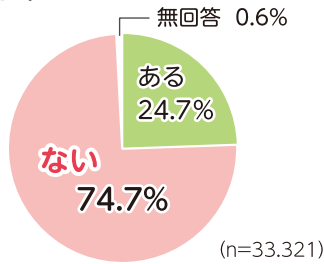


地域子育て支援拠点 は 妊娠期からの支援 に取り組んでいます

「はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんのお世話をしたことがない人が74.7%」のデータがあるなど、出産後の生活のイメージが持てないといった意見があります。

ひろば全協の調査では、地域子育て支援拠点等の7割以上が妊娠期からの支援に取り組んでいる状況が把握されましたが、十分ではありません。こども家庭センター、医療機関等との連携により、妊娠期から切れ目ない支援の担い手として、ともに取り組んでいきたいと考えています。

Q. はじめてのお子さんが生まれる前に、赤ちゃんのお世話をしたことがありますか



「横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」(令和5年10月)

地域や利用者同士のつながりを深めるためにも、早くから拠点を知らせてもらいたいですね。



不安そうだったプレママが、産後にひろばの利用を始めて、スムーズに育児を楽しんでいる母親の顔になりました。



支援者の声

保健師と連携して開催する「土曜両親教室」や「赤ちゃんとのふれあい体験」には、プレパパの参加も増えています。

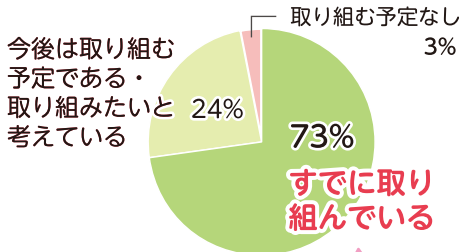


育休明けで復帰する母親が増え、利用期間が短くなっており、妊娠期からの取り組みが大切になっています。

地域子育て支援拠点は妊娠期から身近な場所で日常生活を応援しています

Q. 拠点において妊娠期からの支援に取り組んでいますか？

拠点における妊娠期からの支援に関するアンケート 2023・ひろば全協 (回答数: 200拠点)



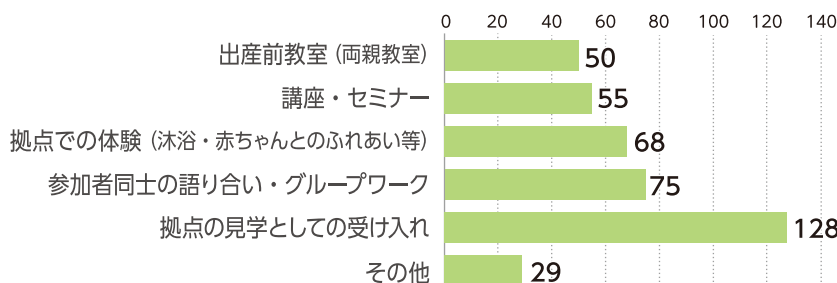
プレママ・プレパパと子育て中の親子との交流 赤ちゃんとのふれあい体験



土曜両親教室



「すでに妊娠期からの支援の取り組んでいる」と回答した拠点の取組内容 (複数回答) (n=147)



その他=29人の記述(抜粋)

- 広報
 - ・母親学級や両親教室に出向き広報
 - ・産後ヘルパー登録時の広報
- 物品提供
 - ・企業との連携による応援バックの配布
 - ・赤ちゃん肌着のプレゼント
 - ・育児用品お試し会
 - ・育児用品のリユース
- プログラム等
 - ・プレパパ・プレママの日(妊婦体操など)
 - ・赤ちゃんの日に合わせたおもちゃづくり
 - ・0歳児親子との交流
 - ・併設の保育所見学

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会

〒222-0037 横浜市港北区大倉山 1-12-18-303

TEL : 045-531-2888 / 045-546-9970

FAX : 045-512-4971

e-mail : info@kosodatehiroba.com

https://kosodatehiroba.com



「住友生命～未来を強くする子育てプロジェクト～」助成事業

ご連絡先

*ここに各ひろばの連絡先を添付してお配りください